年表 1997年～1998年

1997年（平成9年）

▼1月
「大宮にJリーグを呼ぼう会（代表松沢喜久夫）」（以下「呼ぼう会」）が大宮市サッカー連盟有志により発足する。

▼5月28日
「呼ぼう会」が大宮市に招致の要望書を提出する。

▼6月17日
「呼ぼう会」がNTT関東支社にJリーグ参入を要望する。

▼8月1日
NTT関東支社がNTT関東サッカー部のJリーグ参入を決定する。

▼8月29日
新藤大宮市長が、「Jリーグの設立趣旨に賛同し、NTT関東サッカー部が大宮市をホームタウンとすること並びに、地域密着型のスポーツクラブの確立に向け、Jリーグの基準を満たすホームゲーム等に協力し、また、関係機関への協力要請も含め、NTT関東サッカー部を全面的に支援することを承諾する旨を、社団法人日本プロサッカーリーグへ提出する。

▼9月5日
土屋義彦知事が承諾する。

▼9月12日
Jリーグ2部入会条件を確認するJリーグによる第1次ヒアリング
◇**会場**　大宮市役所・大宮公園サッカー場・クラブ事務所他
◇**実施者**　森健兒（Jリーグ専務理事）他3名
◇**内容**　自治体の意思確認（対応：新藤市長・石橋理事・竹折企財部次長）、クラブ関係者へのヒアリング

▼9月22日
Jリーグ2部入会条件を確認するJリーグによる第2次ヒアリング
◇**会場**　Jリーグ事務局（港区虎ノ門2－10－1）

当時を語る Vo.3

元大宮市理事兼企画財政部長　石橋　茂氏

私は、「大宮アルディージャ」誕生前後の4年間大宮市役所でお世話になりました。この間、大した貢献もできませんでしたが、記憶に残る何点かをお話させていただきます。

1997年、「大宮にJリーグを呼ぼう会」が発足しホームタウンの誘致運動がスタートしたと聞きましたが、8カ月後には、NTT関東が同社サッカー部を母体としたJリーグチームを創設し、大宮をホームタウンとしたいという具体的な話になってきました。

もし、これが実現するならば市民にとってこの上ないすばらしいプレゼントになると思い大歓迎でしたが、その一方でクリアーすべき課題が頭をよぎりました。

その一つは近隣地域に二チームが可能かということでした。当時合併話が進んでいた浦和市には絶大な人気を誇る「浦和レッズ」が既にあり、一方で日本の各地方都市は地域活性化の切り札として、こぞってJチームを誘致しており、そうした状況の中で隣接する大宮・浦和で二チームいけるのかという心配でした。

しかし、これは地元関係者の一丸となった熱意と要望、そしてJリーグ関係者の理解と協力によって危惧に終り、無事アルディージャが誕生することになりました。

もう一つはスタジアムの問題でした。ホームタウンとなるにはJリーグ仕様のスタジアムが必要となります。しかし、大宮市には自前のサッカー場はなく、大宮公園の県営のサッカー場しかありませんでした。このため、この県営サッカー場をまずJリーグ仕様に変更してもらう必要があったことから県に改修のお願いをするとともに、一層のことこれを市に移管してもらい優先的に予算配分をして整備しようと考え、当時私と竹折企財次長とで、県当局と移管交渉をいたしました。今日では、県のご協力もあり、結果的には市に移管され、今やアルディージャのホームスタジアム「NACK5スタジアム大宮」として全国的に名をはせているのはご存知のとおりです。

最後に、余談になりますが名前は「大宮アルディージャ」となりました。しかし、「アルディージャ大宮」ではいけなかったのです。これは当時の新藤市長の強いご意向でもありましたが、やはり市民の誰もが愛する街「大宮」を頭にして、その気持ちを表したかったのだと思います。この思いのこもった、「大宮アルディージャ」は、大宮市民の夢と希望の結晶であり、宝だと思います。

現在私は大阪に勤務しておりますが、遠方より益々のご発展・ご活躍を祈念しつつ、大阪のファンを一人でも二人でも増やす努力をしたいと考えております。

元NTT関東サッカー部第10代監督　佐々木　則夫氏

平成8年JFLの変革とともに、我がチームもプロ化か地域リーグへの降格かと、選択を問われた時、私自身はプロ化の大胆な改革は、NTTの分割化と相まって無理だと思っていました。そんな時当時の支店長中村氏から、「今までのサッカー部の火を消すことは簡単だ、更に灯すために頑張ろう」とパワー全開に働きかけて頂き、私達には目に見えない大きな壁を乗り越え、プロ化へと結び付けて頂きました。まずチームの質、成績等をアップし、地域・会社にPRすることが最大の役目と考えました。96年の天皇杯、三回戦に勝ち上がると浦和レッズとの埼玉ダービーマッチのチャンスに、戦う前から会社では埼玉ダービーマッチのPR、大規模な集客準備も進められ、選手・スタッフも今までに味わったことのないプレッシャーの中、一回戦（同志社大2－0）、二回戦（早稲田大1－0）突破を果たしました。駒場二万人の観衆の中での埼玉ダービーマッチは、健闘虚しく0－3と破れたものの、地域等にアピールすることはできました。

97年は更に結果を問われるシーズンとなり、特に6月の常務会を意識したJFL前期の勝ち越し、JFL9位、天皇杯三回戦は2年連続の埼玉ダービーマッチ（0－2）健闘虚しく敗戦でしたが、全選手最大に力を出し切り健闘したシーズンでした。

98年はプロリーグを目前に、チーム強化を準備する年でした。私自身はアマ身分での指導者でしたので、アマの選手にプロ意識を持たせることに限界を感じていたことと、S級ライセンスの資格がないという2点を会社と相談しました。解決策として、プロ経験豊かな指導者の招聘とともに、S級ライセンス受講することになりました。また、オランダからの新監督、初の外国人補強2名、日本人プロ選手補強が決まりました。この改革の大きな仕事は、私に代わり佐久間コーチを強化担当としたことです。佐久間氏は持ち前のバイタリティーを生かして責務をこなし、ピム新監督構想の元、片白強化部長と共に強化が図られました。

いよいよ99年、社員選手も23名から6名と絞られ、その他は全員プロ選手、外国人選手は3名と大幅に補強し、清雲氏（前ユース監督）をGMとして招いてフロントの強化も図り、30周年を刻んだチーム新たな「大宮アルディージャ」がプロチーム新年を迎えることになりました。（「NTT関東サッカー部30年の歩み」に寄稿した文より抜粋）

現在「なでしこJAPAN」監督として女子選手を指導していますが、当時の経験が飛躍的に成長している「なでしこJAPAN」の今日までの成績につながっていると思います。

元埼玉新聞運動部記者　河野　正氏

1991年1月30日、日本サッカー協会は『プロサッカーリーグ設立の経緯について』と題し、報道関係者を集めて説明会を行った。プロリーグ参加10チームの正式発表は後日としながら、プロリーグ検討委員会の川淵三郎委員長（現日本協会明らかにした。

実力的に劣る日本サッカーリーグ（JSL）2部の住友金属（現鹿島）やマツダ（現広島）のほか、運営母体に大企業を持たない唯一の市民クラブ、清水FC（現清水）が名を連ねたわけだが、チーム選定に当たり、検のが地元との結びつきだった。

大宮アルディージャの前身、JSL2部のNTT関東も創設メンバーに立候補していたが、ホームタウンの選別など準備不足もあって外された。当時の原輝夫部長は「今後は会社を挙げて協力してもらえるよう、コンセンサスづくりを進めていきたい」と述べていた。

最大の難問はホームタ部で浦和レッズとNTT関東を担当していた私は、90年頃からJSL2部とジャパン・フットボールリーグ（JFL）に所属するNTT関東の取材で、大宮や浦和、川越や鴻巣に足を運んだ。

大宮と川越に候補地を絞り込んだNTT関東は、集客力を決め手に大宮を選んだ。当時の片白文雄強化部長は「署名活動をきっかけに地域の強い要大会も開催してきたし、地元チームの色を前面に出すには、大宮がふさわしいと思った」と説明した。

99年からのJリーグ1、2部制移行に呼応し、地元では97年に『大宮にJリーグを呼ぼう会』が発足し、署名活動を行った。レッズもそうだったが、市民の草の根運動が行政を動かしチームを本気にさせ、地元との密着たのだ。97年12月にJリーグ加盟が承認され、翌年、大宮アルディージャとしてプロへと転換していく。

『呼ぼう会』の発起人代表が、後援会常任理事の松沢喜久夫さんで、私は大宮市政担当記者とともに活動を記事にした。この原稿を書いていたら、往時が鮮明によみがえった。

未来へ、ともに!!
不動産売買・賃貸・管理
REAL ESTATE TAISHO SINCE 1977
株式会社　帯勝（たいしょう）
さいたま市北区土呂町2-12-24土呂駅東口
TEL 048-664-1000
FAX 048-651-7890
http://www.taisho-co.jp

包装用品総合商社及び小売販売
あなたのお店のパートナー
カバサワ KABESAWA
☆プロが選ぶ確かなお店
☆あなたを満足させる品揃え
☆誰をもうならせる商品知識
≡各種イベント用品レンタル・販売あり！≡
〒330-0842 さいたま市大宮区浅間町2丁目231番地
☎048-641-2638 FAX 048-643-0172

大宮アルディージャを応援します！
新体制に期待しています。
㈱渡辺塗装工業
さいたま市大宮区天沼町1-452
TEL048-648-4111
http://www.watanabe-tosou.co.jp